

(4) 中村小学校

学 校 長 村 松 人 巳
校内研究代表者 上 田 美 緒

1. 研究主題

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり
—各教科等における見方・考え方を働かせて—

2. 主題設定の理由

今日において人工知能 (AI)、ビッグデータ、Internet of Things (IoT)、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられた Society5.0 時代が到来しつつある。そのため、次代を担う子ども達には、自分のよさや可能性を認識するとともに、様々な変化に主体的に関わり、自分なりに試行錯誤したり、多様な他者と協働したりして「課題を自ら見出し解決する力」「論理的に考えたり他者に分かりやすく表現したりする力」「知識・技能の更新のために生涯にわたって学習する力」等、変化の激しい社会に対応するための汎用的な能力が求められている。学習指導要領には、新しい時代に必要となる資質・能力の育成を目指し、資質・能力ベースの授業、主体的・対話的で深い学びの実現、教科等における見方・考え方を働かせる授業が位置付けられている。その具現化に向け、令和3年度から、高知県教育委員会「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクト実践研究協働校事業として、中村中学校と共に小中学校9年間の学びをつなぐ資質・能力を育む授業づくりの実現に向けた研究実践に取り組み、昨年度は「令和の授業を創る」推進プロジェクトにおける令和の授業づくり講座(国語科)を通して、ICTを効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体化の充実を図ってきた。今年度は、「第32回 高知県生活科・総合的な学習教育研究大会県大会」を受けたことをきっかけに、生活科・総合的な学習の時間と各教科と関を関連させながら「主体的・対話的で深い学び」へとつながる授業づくりを目指していく。また、引き続き研究教科を国語科と算数科とし、これまでの研究成果を生かして、各教科等における見方・考え方を生活科・総合的な学習の時間においても働かせる学習活動や目指す児童の姿を明確にした授業改善に努めていく。

令和6年度の全国学力・学習状況調査及び高知県学力定着状況調査において、国語・算数・理科の3教科とも全国平均を上回り、かつ全国平均を+5pを超えて目標値を達成する教科もある等、学力向上の取組成果が見られる。しかし、1月実施の標準学力調査においては、1年国語で全国平均を下回った。また、正答率40%以下の割合の目標値を下回る等、学力の二極化がみられる。実際の授業では、児童の日常場面や身近な場面、他教科と関連させた課題設定、児童から課題や問いを生み出し、解決していく単元構想、導入や展開を工夫することで主体的に取り組む児童の姿が多く見られるようになってきた。その一方で、自らの学びを自覚したり、深めたりする対話までには至っていない。また、自分の考えを記述したり、根拠をもとに説明したりすることに課題のある児童や、学習に対して受動的な児童も依然として見られ、学力差もある。学年間で共通理解を図りながら、基礎的な学力の定着を低学年から確実に積み上げていくとともに、課題の要因を明らかにしながら授業改善し、学力向上を目指していく必要がある。

以上のような背景や本校児童の実態から、研究主題を「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり—各教科等における見方・考え方を働かせて—」としている。「主体的・対話的で深い学び」については、問題解決に向けて、習得した知識・技能を活用し、他者と関わりながら自己の学びを自覚し、新たに自分の考えや思いをもとに創造していく主体的・協働的に学び合う活動と捉えている。学習指導要領の趣旨を生かした学習指導において、教科等における見方・考え方を働かせる指導となるよう、指導過程や指導方法、発問の工夫、ICTの効果的な活用等、教師の指導性を適切に発揮するこ

とで学びや課題に挑戦する意欲を喚起し、子ども同士の関わり合いの質、学びの質、資質・能力の質を高めていきたい。

3. 研究の進め方と方法

<研究内容>

- (1) 身に付けさせたい資質・能力の明確化と例えば国語科においては有効な言語活動, 算数科においては数学的活動の設定等, 評価規準・評価方法の明確化
- (2) 各教科等の「見方・考え方」を働かせた学習過程の研究
- (3) 「授業改革ハンドブック」等をもとにした授業の質的改善の研究
- (4) 国語科・算数科で付けたい力と他教科等との関連を図るカリキュラム・マネジメント表の活用
- (5) 1人1台端末のタブレットを活用した授業づくりの推進

<研究方法>

1人年間1回以上公開授業（生活科・総合的な学習の時間と兼ねる場合もある）を行う。全教職員で研修を深める研究授業においては学習指導案を作成する。学年や低・中・高学年ブロックを中心に教材研究、模擬授業や先行授業を行う。特別支援学級担任及び専科教員については、ブロックまたは学年で授業を見合い、授業改善に生かしていく「見て見て授業」を行う。授業後は「身に付けさせたい資質・能力」をその授業を通して身に付けることができたのかを中心に据え、そのための視点を明確にして研究協議を行う。また、各自で研究授業のまとめを作成する。

<研究組織>

- ・研究推進委員会の計画的な実施（原則毎週月曜日）
- ・3部会「学力向上部会」「仲間づくり部会」「健康・体力づくり部会」の内、本研究に関しては「学力向上部会」が担う。

4. 研究の取組

<授業実践>

「第32回 高知県生活科・総合的な学習教育研究県大会」

◆授業研究会 令和7年10月7日◆

- | | | |
|--------|------|------------------------------------|
| 【第2学年】 | 生活科 | 単元名「行くぞ中村のまち ざまに知りたい（隊）」 |
| 【第3学年】 | 総合学習 | 単元名「ぼくら3年 もっと楽四万十 たんけんたい」 |
| 【第4学年】 | 総合学習 | 単元名「守れ！大好き！四万十市！」 |
| 【第5学年】 | 総合学習 | 単元名「おいしさ再発見！四万十ブランド！～食を支えるふるさとの味～」 |
| 【第6学年】 | 総合学習 | 単元名「未来へつなごう！私たちの町～小京都中村活性化プロジェクト～」 |

<テーマ> 発信！！私たちのふるさと・そして未来！



1, 2年

気づく

3年

親しむ

4年

見つめる

5年

関わる

6年

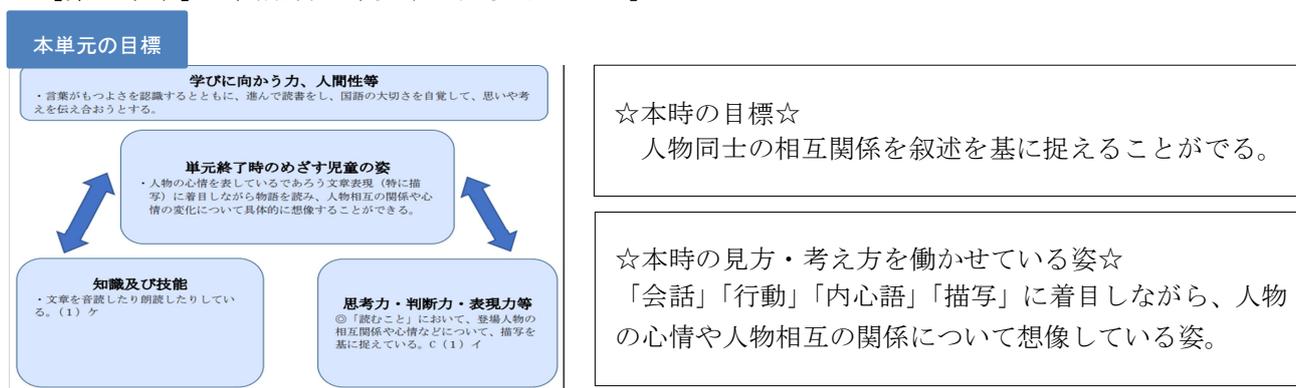
つなぐ

校内研究授業

6月18日	国語科	4年1組	走れ
6月18日	国語科	2年1組	名前を見てちょうだい
6月24日	国語科	6年2組	風切るつばさ
10月29日	国語科	1年1組	すきなきょうかをはなそう
10月29日	算数科	5年1組	平均
11月19日	算数科	4年2組	およその数の表し方と使い方を調べよう
11月26日	算数科	1年2組	ひき算
1月21日	国語科	5年2組	どう考える？もしもの技術
1月28日	国語科	3年2組	クラスの思い出作りのために

◆研究授業 令和7年6月24日◆

【第6学年】 国語科 単元名「風切るつばさ」



登場人物の相互関係を叙述を基に捉え、考えたことを伝え合う

5. 今年度の成果と課題

- 高知県生活科・総合的な学習教育研究大会県大会に向けての取組を通して、各教科での学びを生活科・総合的な学習の時間へつないでいくことをより意識しながら、教科指導に力をいれることができた。
- 昨年度に引き続き、国語科及び算数科を研究教科とし、子どもが興味関心をもち、本気で課題解決したくなるような課題設定をすることや目的意識を持った対話活動を行うことで、より学びが深まるとともに、子どもの思考に沿った学習過程となるような単元及び授業構想をしていくことが重要であると学ぶことができた。
- 学習指導要領解説を読み解くとともに、資質・能力、見方・考え方の捉え方を教員間で共有し研究を進めていく必要がある。
- 学習を通して、児童が自己の学びを自覚することができる学習過程の工夫（課題設定、発問、対話場面等）や指導と評価の充実を図ることが必要である。
- ICTを効果的に活用した単元構想や学習過程を考え、研究授業だけでなく日常の授業改善につながるよう、さらに研究を進めていく必要がある。
- カリキュラム・マネジメント表を見直し、生活科・総合的な学習の時間を中心とし、他教科等と関連づけて、意図的・計画的かつ効率的に資質・能力を身に付けていくことが必要である。